



めっちゃがおもしろい！

おもちがんとのはなし、



わくわく wakuwaku KuSuKu

KuSuKuとは？

2023年12月に開所した学童保育所のことで、京大のシンボルツリーであるクスノキから、子どもたちがすくすく育ってほしいという想いを込めてKuSuKuと名付けられました。京大の教職員・学生の子育てを支援しており、京大の研究者やOB、学生が企画するアカデミックプログラムが特徴的です。

今回は
学生によるアカデミック
プログラム特集です！
(でこぼん)

・京大生の「気軽な」アウトリーチ、先導します・

京都大学キッズコミュニティ KuSuKu × 天文アウトリーチ学生団体 あすちか

2024/11/30の
あすちか特別授業
に行ってきました



天文アウトリーチ 学生団体 あすちか

2023年、宇宙系を専攻する4人の京大生を中心に発足した天文アウトリーチ団体。「宇宙（アストロノミー）をもっとみぢかに」というモットーのもと、小学校や学童などでゼロから企画を立ち上げ、アウトリーチ活動をおこなっている。KuSuKuではこれまでに何度も活動をおこなっており、京大生のアウトリーチ活動のノウハウを構築している。

X: @asuchika_

—お疲れさまです！ 今日企画を終えてみて、どうですか？

緊張したりバタバタしたり、というところはあったんですけど、企画から実行まですべてが勉強でした。こどもたちにどう伝えるか深く考える中で、普段の授業では体験できない、「伝える」ことの難しさを実感できました。こどもたちが楽しんでくれているのを見ると、安堵と喜びが込み上げます（笑）

—企画を作る上で気を付けていることなどはありますか？

KuSuKuには活発な子が多いので、今回はできるだけ手を動かせるようなクイズ

や工作を企画しました。クイズを作る上では、小学生が対象ということで、数字や温度の概念がどれくらい理解できているのか、カリキュラムも参考にしながら注意しました。今回は低学年の子が多かったので、もともと個人でおこなうつもりだったのを、グループに改めました。工作は「お家でも作れるか」という再現性・簡単さを重視しました。

—なぜKuSuKuでの活動を始めたのですか？

もともと学童でやりたいなと思っていたときに、KuSuKuという施設があるのを担当の方から聞いて（笑）

—今後の目標を教えてください！

天文学は論文を書いているだけじゃ進みません。最先端の研究をして、それを体系化して、一般化して、そしてそこから新しい研究者が誕生して……というサイクルがあります。私たちはその一般化、すなわち「伝える」ところを担おうと思っています。また、この活動を通して京大生が「気軽に」アウトリーチできる環境を増やすのも目標です。大掛かりな企画じゃなくても、「ちょっとやってみたいな」という気持ちになったときに気軽に始められるような先例を作っていきたいです。

—ありがとうございました！



①宇宙シアター

▲なんと3Dスクリーンで宇宙旅行しました！



②あつさクイズ

▲星の温度クイズ！ 金星ってどれくらい熱いんだ～？



③オリジナルプラネタリウム

▲優しく教えてもらいながらオリジナルプラネタリウムも作りました！

はみだし
すてーじ

今年クリスマスに塾バイト……彼氏ほしい
⇒「24日シフト入れるよね？」と言われたときのやるせなさと言ったら……やめてほしい

(工・1 かぶらまる)
(新学期に素敵な出逢いを期待して；編)

はみだし
すてーじ

クリスマスは、ジングルベル
⇒4月のはみだしは、ジングルベルならめシングルベル回収コーナー

(理・3 Sour Kale)
(今月の十人十色「春はOO」も乞うご期待……！；編)

京大×こども でうまれる 新たな可能性とは？

—KuSuKuの特長は何ですか？

大事にしているのは、KuSuKuを、こどもにとって「預けられる」場所ではなく、「行きたい」場所にすることです。「学童」と聞くと、保護者の仕事の都合でこどもを預けるというのが一般的なイメージですが、KuSuKuは仕事に限らずちょっとした用事でも利用することができます。土日祝日や小学校の長期休暇期間のみ開所しているKuSuKuには、休日に親と遊びたいと思う低学年の子もいると思います。一方で、保護者の方も休日にこどもを預けるという負い目があるかもしれません。そこでKuSuKuでは、こどもたちが寂しい気持ちを少しでも忘れられるよう色々な工夫をしています。そして、こどもが帰ってきてその楽しい経験を話すことで、親も安心できますし、そこから親子のコミュニケーションが生まれたいなと思っています。

—アカデミックプログラムというものがあそうですね

KuSuKuでは、京大の研究者やOB、学生などが講師として参加し、こどもたちが、大学の独創的な最先端の研究に触れることで、科学の面白さ・調べてわかることの楽しさに気づくプログラムを提供しています。開所日は毎日、午前・午後のどちらか1時間半ほどの時間で、アカデミックプログラムと、遊びやゲームを盛り込んだ体験プログラムのどちらかをやっています。

講師の先生方には、「自分だったらこういう内容の話ができるな」とか「研究内容をどうしたら小学生にもわかりやすくなるかな」といったことを考えて実施していただいています。開所から1年と少し経ちましたが、延べ100人以上の講師に参加していただいています。

—学生もアカデミックプログラムを企画できるんですね！

もちろんです！サークル活動や自分の研究の内容を、小学生に対してどうアウトリーチするのか考えることは、難しいけれど、より深く自分たちのやっていることを知るきっかけになると思います。また、小学生がわかるということは、一般の人にも内容が伝わるということです。ここでの経験が、自身の活動をPRする際に役立つのではないのでしょうか。それにKuSuKuのこどもたちには、好奇心が強い子が多いので、想定外の質問が飛んできたりして面白いと思いますよ！私たちが火山博士、鉱物博士と呼んでいる常連のこどももいます（笑）

学生のプログラムも増えてきますので、興味がある方はぜひ気軽にご連絡ください。プログラムの実施方法や準備なども相談に乗ります。

—最後に、今後のKuSuKuの活動に対する想いを聞かせてください

ここを利用したこどもたちが、大人になっても、こどものときの楽しかった記憶の1つとして思い出してくれるような施設にできたらと思います。また、アカデミックプログラムを通じて、大学でおこなわれている研究や、まだ誰も知らない・わからないことが面白いんだということを感じてほしいですね。

将来的には、KuSuKuが、子育てをきっかけにした教職員・学生同士のつながりや、外国人研究者、留学生、障害者の方など多様な人の交流のハブとなり、京大のInclusiveな拠点としてDEIB推進の一翼を担う場にできたらと思います。

—お話ありがとうございました！

連絡先：人事部ダイバーシティ推進室
TEL：075-753-2059
e-mail：g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

山下武史さん

京都大学ダイバーシティ推進室



こどもが「預けられる」場所から

こどもが「行きたい」場所へ

DEIBってなに？

Diversity, Equity, Inclusion, Belongingの頭文字をとった概念をDEIBと呼びます。京大は4月に「京都大学 DEIB 推進宣言」を公表しました。この宣言は、異なる視点や経験を持った多様な人を受け入れ、違いに応じた支援（Diversity & Equity）と、それぞれの個性と能力を存分に発揮できる環境（Inclusion）の整備に力を注ぎ、さらに、学生・教職員みんなが、自らのアイデンティティの一部として大学に愛着と誇りを持てる共創的なコミュニティ（Belonging）を目指すことを旨としています。

インタビューを終えて

京都大学男女共同参画推進アクションプランの子育て支援の一環として、教職員のニーズから生まれたプロジェクト、KuSuKu。大学への学童保育所の設置という前例がない中で、施設の設計、財源、設置場所、運営方法など多くの困難があったそうですが、研究センター主義の京大が、最近、教職員のワークライフバランスの充実力を入れていることは、今後大きな意味を持つと思います！

KuSuKuのデザイン

京大のOB・OGや卒業生の方々がこどもたちのために細部までこだわってデザインしました！



▲広い遊戯室。家具は京大の研究林の間伐材を使用しており、天井の色使いにまで気配りがされている。



▲プログラムの中心となるミニホール。壁一面がホワイトボードとなっており、こどもたちが思い思いの姿勢でくつろげる空間になっている。



▲選りすぐりの本が並ぶ本棚。教員推薦図書をはじめ、あえて難しい本や洋書も並べている。